

2024 年度第 3 四半期決算説明会 質疑応答

(説明会概要)

- 日時： 2025 年 2 月 6 日(木)16:00~16:30
- 形式： OKI 本社よりオンライン配信
- 説明者： 代表取締役副社長執行役員 寺本禎治

(質問者 A)

- Q1：本日発表した第 3 四半期実績及び年間見通しについて、セグメント別の強弱も含めどのように評価しているか。
- A1：総じて期初の見通しどおり、若干上回る進捗と認識しております。セグメント別では、たしかに EMS は半導体や FA ロボットなどの関連する市況の回復が遅く、期初の見通しを下回っておりますが、消防・道路・防災などの社会インフラソリューション事業は期初見通しどおりの進捗と考えております。当社の事業は第 4 四半期で大きく売上が伸長する特徴もあり、EMS は下方修正しましたが他のセグメントで補う形で現在年間着地に向けて粛々と進めております。
- Q2：防衛装備品を手掛ける特機システム事業は、第 3 四半期累計でどのくらい業績が伸長したのか、受注動向も含めて説明いただきたい。
- A2：特機システム事業について、第 3 四半期累計実績も対前年度で増加していますが、大きく伸長するのは第 4 四半期で、引続き慎重に見て参りますが現時点では年間売上高が前年度比で大幅な伸長となる見通し、受注についても同様の傾向が出ております。
- Q3：2025 年度の中計目標値は営業利益 180 億円であるが、2024 年度営業利益に含まれる改刷特需と大型案件が剥落しても 180 億円は達成できるのか。
- A3：2025 年度の営業利益 180 億円は何としても達成したく、それ以上も目指していきたいと思います。エンタープライズ事業では確かに改刷は剥落するが一部の大型案件は継続するので、コスト改善などの施策も併せて進めていきます。また社会インフラソリューション事業では、消防・道路・防災等の案件も継続し、特機システム事業も追い風があり、受注獲得も見えて来ているので中計目標の達成に向け邁進して参ります。

(質問者 B)

- Q4：エンタープライズ事業に関して大型案件の説明があったが、どのような取引先か。また、パブリックソリューションにおける案件についても可能であれば詳細を説明いただきたい。
- A4：エンタープライズの取引先については、金融機関、流通・小売業、運輸・旅客などがあり、今年度は改刷に関連したリプレース需要もございました。また現金処理機等は、来年度も需要が継続致します。パブリックソリューションにおける事業の内容です

が、今年度見通しの売上規模も併せて申し上げますと、消防・道路・防災などを手掛ける社会インフラソリューションで約6割、防衛関連を手掛ける特機システム事業で約4割となります。

- Q5：EMS セグメントの減益背景として、一部の情報通信市場の取引先における在庫調整という説明があったが、市場回復の見通しを含めて説明・見通しをお願いしたい。
- A5：取引先の詳細は申し上げられませんが医療関連市場のお客様における在庫調整がございました。EMS セグメントに関連する市場について、市況回復は来年度以降に入ってからを期待しておりますが、半導体製造設備に関しては AI 関連では市場拡大も、自動車・産業機器は現状兆しがみられず、FA・ロボットに関して中国市場は本格回復には至ってないという認識で、回復時期も 2025 年度後半あるいは 2026 年度になるかもしれません。このような状況もありますが、一方で海外の販路も切り開いていく施策も視点も入れながら、現在来年度の事業計画を編成しております。
- Q6：トランプ政権の発足に伴い関税引上げ等の報道が出ているが、業績への影響をどのように見ているか。
- A6：関税引上げに関しては、海外売上高や生産拠点の観点から直接的な影響は少ないと考えておりますが、当社のお客様の市場として間接的な影響はあると認識しており、外国為替相場の変動等も併せて注視して参ります。

以上